

里海通信

能登町立小木小学校

令和7年12月23日

2学期は、自分の思いや考えを表現したり、自分たちが学んできたことを発信したりすることを大切にしながら、里海の学習を進めてきました。その一部を紹介します。

里海遠足～のとじま水族館の復旧の歩みから学ぶ～

昨年度と同じくのとじま水族館に行き、能登半島地震からこれまでに、のとじま水族館がどのように復旧・復興してきたのかのお話を聞きました。通常通りの水が使えない中での生き物の安全確保や生き物の避難、のとじま水族館へ生き物を戻す活動を行ってきたことを知りました。私たちの生活と同様に、生き物の命と安全を守るために、他の多くの飼育施設からの支援で復旧できたことを知り、能登が幅広く支援を受けていたことを実感しました。完全復活したのとじま水族館で、生き物の見学やイルカショーを存分に楽しみました。



1年生 生活科：生き物と仲よし大作戦

9月に、のと海洋ふれあいセンター近くの海へ行って、カニ、ヤドカリ、イソジエビなどの生き物を観察し、採集しました。浅い海にも、たくさんの生き物がいることがわかりました。採集した生き物は、学校へ持ち帰り1週間お世話や観察をしました。この活動を通して、能登の海が今までよりもっと好きになりました。



2年生 生活科：小木水族館をつくろう

教室に水槽を設置し、1カ月半海の生き物を飼育しました。生き物のすみかやエサに必要なものはなにかを調べたり、のと海洋ふれあいセンターの方に質問したりして、海の生き物について知っていきました。京都市の西別院小学校の1・2年生に向けて、生き物の様子をライブ配信したり、飼育や観察を通して知ったことや気付いたことを伝えたりしました。



3・4年生 総合：わたしたちの海を守ろう

日本の海ごみはどこからきたのか疑問に思い、能丸先生に教えていただきました。陸のごみが雨や風によって川へ行き、海に流れつくことを知りました。海ごみを減らすために家庭のごみを減らそうと「マイバックを持参する」「食品ロスをなくす」「リサイクルをする」などの取組を考えました。この取組を地域の人達に発信し、みんなで小木の海を守ろうとよびかけました。



5年生 里海科：海の植物の受粉と実のでき方

陸の植物と海の植物では受粉と実のでき方に違いがあるかどうか調べました。陸の植物は、風や虫が花粉を運んで受粉することをもとに、海の植物も何かが花粉を運んでくれると考えました。能丸先生から、海の植物の種類や特性を教えてもらい、クラスでめしべとおしべ役に分かれてどのように受粉するか考えました。海の植物は波の満ち引きを利用したり、おしべとめしべが待ち合わせをしたりして受粉することに感動しました。



6年生 里海科：地球に生きる

私たちの暮らしが環境にどのような影響をおよぼすかを調べ、最近の気候変動や環境の変化には、二酸化炭素の排出の増加が関係していることを学びました。気候変動や環境の変化から海や私たちの暮らしを守るために海や山の仕事で工夫していることについて、ゲストティーチャーから話を聞きました。予防するだけでなく適応しながら暮らしていくという新しい考えを知り、これからの課題について前向きに考えました。



海洋教育の第2期に向けて～海洋教育研究発表会より～

12月4日に、今年度の海洋教育研究発表会を行い、2年生活科、3・4年総合的な学習の時間、6年里海科の公開授業と、本校の海洋教育についての説明を行いました。

本校の海洋教育が今年度で11年目を迎えるにあたり、これまでの活動を振り返り、これからも海に関する体験活動を重視していくこと、つけたい力を明確にした授業をしていくことを確認しました。

今後も、海洋教育を通して、ふるさとにほこりと愛着をもち、能登や自分の未来に向かって前向きに歩いていける児童を育てていきたいと思ひます。



～児童アンケートの結果より～

里海学習で、自分の考えや思いを表現したり発信したりすることは楽しいですか。



里海学習で、自分の考えや思いをもつことができますか。



今年度はこれまで、

- ①課題意識をもつ
- ②体験活動の重視
- ③体験をふりかえり、まとめる

この3つを柱に、「自ら進んで、考えや思いを表現・発信することができる児童」を目指してきました。「里海学習で、自分の考えや思いを表現したり発信したりすることは楽しいですか。」に対する肯定的評価は100%、「里海学習で、自分の考えや思いをもつことができますか。」に対する肯定的評価は98%でした。今後も、児童の思いとねらいを明確にして、表現・発信できる授業づくりをしていきたいと思ひます。